

救 急



南分署庁舎と新高規格救急車

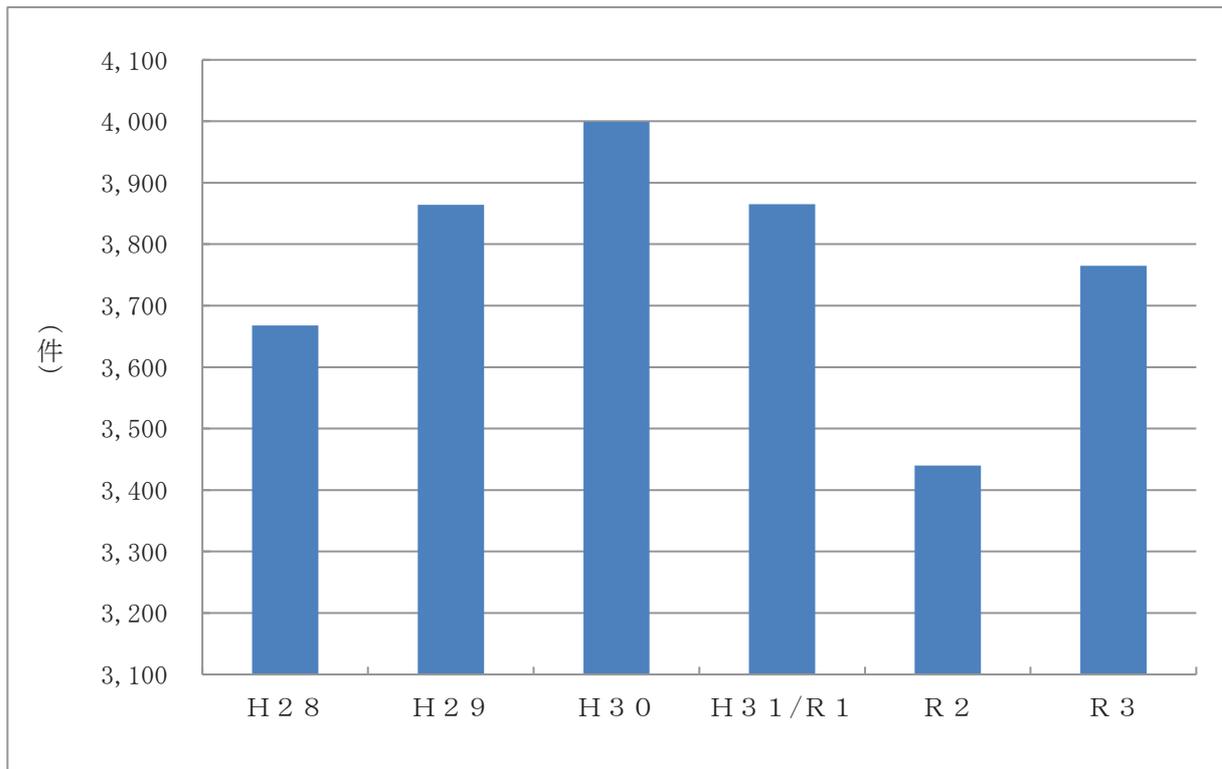
救急業務の推移

令和3年中の横手市における救急出動件数は3,765件で3,582人を医療機関に搬送した。これを前年と比較すると件数で325件、搬送人員325人の増加となった。

令和2年が、新型コロナウイルス感染症の影響で一時的に減少したことが推定されるが令和3年は新型コロナウイルス感染症に対する行動様式の変化により再び増加したと考えられる。人口減少のなか、救急搬送の可能性が高い高齢者人口は減少しないため、今後しばらく救急件数は横ばいとなる見通しとなっている。

5年前との比較でみると出動件数は97件の増加、搬送人員は75人の増加となっている。

第1図 救急出動件数の推移



第1表 救急出動件数及び搬送人員の推移

	出動件数	前年比	搬送人員	前年比
平成28年	3,668	+51	3,507	+22
平成29年	3,864	+196	3,704	+197
平成30年	3,999	+135	3,829	+125
平成31年 令和元年	3,865	-134	3,681	-148
令和2年	3,440	-425	3,257	-424
令和3年	3,765	+325	3,582	+325

救急業務の実施状況

(1) 救急出動状況及び搬送人員

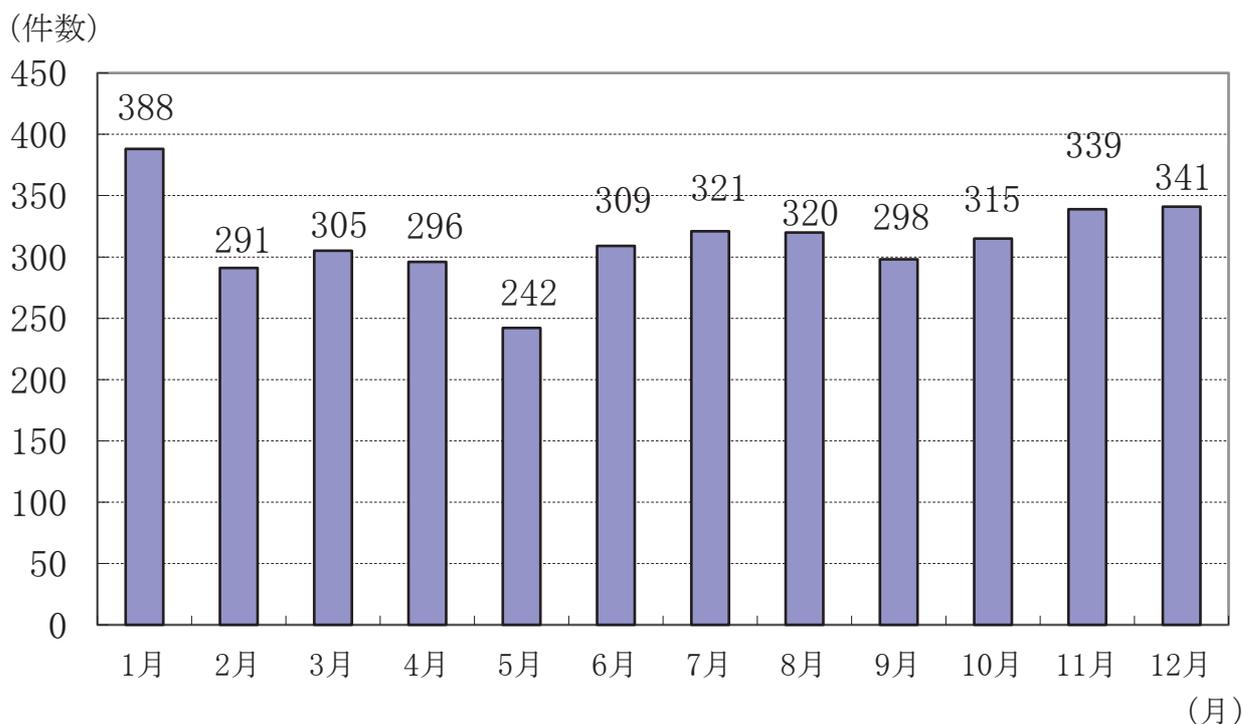
令和3年中の出動件数は3,765件で1日平均10.3件、搬送人員は、3,582人で管内人口85,912人（令和3年12月31日現在）のうち概ね24人に1人が救急隊によって搬送されたことになる。事故種別出動件数では、急病が2,483件（65.9%）一般負傷609件（16.2%）、転院搬送323件（8.6%）の順で上位を占めている。

地域別の救急出動件数は、横手1,549件（前年1,421件）、平鹿499件（前年441件）、十文字469件（前年483件）、雄物川395件（前年340件）、増田351件（前年286件）、大森208件（前年196件）、大雄163件（前年121件）山内131件（前年151件）、管外への出動0件（前年1件）の順となっている。

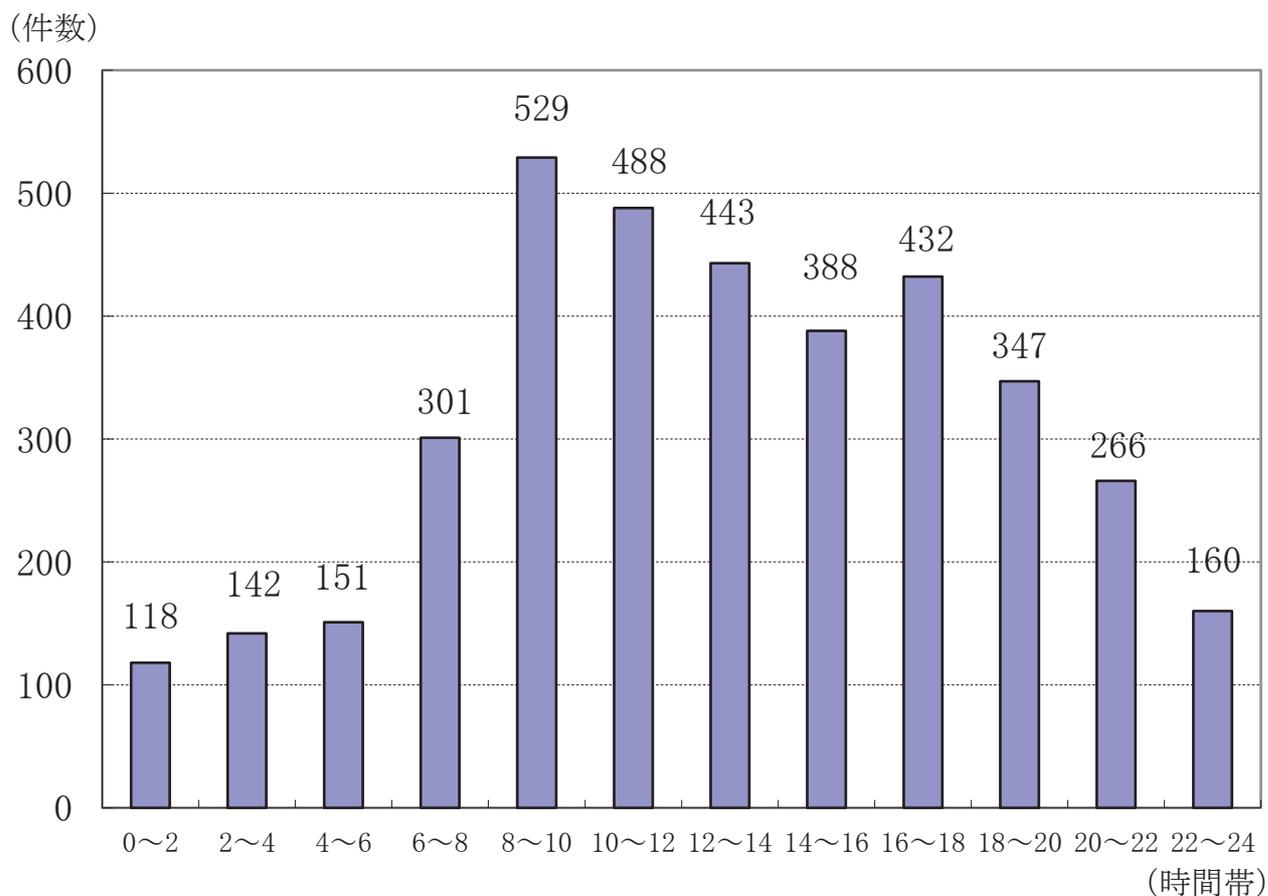
第2表 救急出動の概要

	令和2年	令和3年
管内人口	87,452人	85,912人
出動件数	3,440件	3,765件
搬送人員	3,257人	3,582人
1日あたりの出動件数	9.4件	10.3件
1日の最多出動件数	23件	22件
人口1万人あたりの出動件数	393.4件	438.2件
管内人口／搬送人員	26.9人に1人	24人に1人
救急出動最多事故種別	急病	急病
救急出動最多月	12月	1月
救急出動最多曜日	水曜	木曜
救急出動最多時間帯	8時～10時	8時～10時

第2図 月別救急出動件数（令和3年）

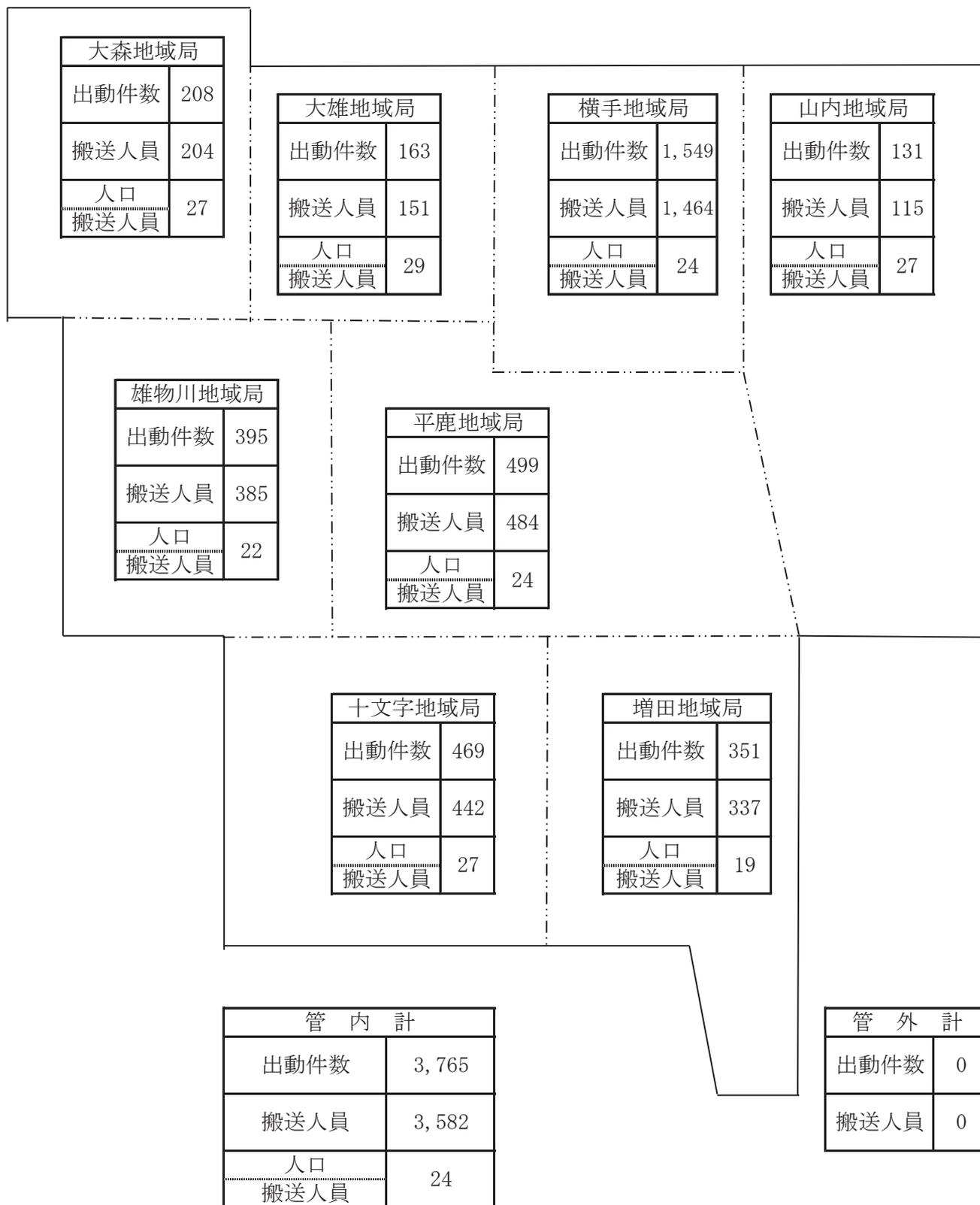


第3図 時間帯別救急出動件数（令和3年）



第4図 地域別救急出動件数及び搬送人員

(令和3年中)



(2) 傷病程度及び年齢別搬送人員の状況

令和3年中の搬送人員は3,582人で傷病程度状況は、死亡156人(全体の4.4%)、重症557人(同15.5%)、中等症1,684人(同47.0%)で、これらをあわせた傷病者の割合は全体の66.8%にあたる。一方で入院加療を必要としない軽症者の割合は33.1%と高い数値になっている。

また、年齢別では65才以上の年齢層が2,680人と全体の74.8%を占めており、高齢化社会の影響により高年齢層の救急搬送人員の割合が高くなっている。

第3表 傷病程度別搬送人員

	計	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送・その他
計	3,582	1	2	2	189	54	14	584	7	31	2,377	321
死亡	156		1	2	5	1		14		11	120	2
重症	557				9	7	1	66		8	354	112
中等症	1,684				59	32	5	299	2	6	1,109	172
軽症	1,185	1	1		116	14	8	205	5	6	794	35
その他	0											
備考	○死亡 初診時において、死亡が確認されたもの。 ○重症 3週間以上の入院加療を必要とするもの。 ○中等症 入院を必要とするもので重症に至らないもの。 ○軽症 入院を必要としないもの。 ○その他 医師の診断がないもの。											

第4表 年齢別搬送人員

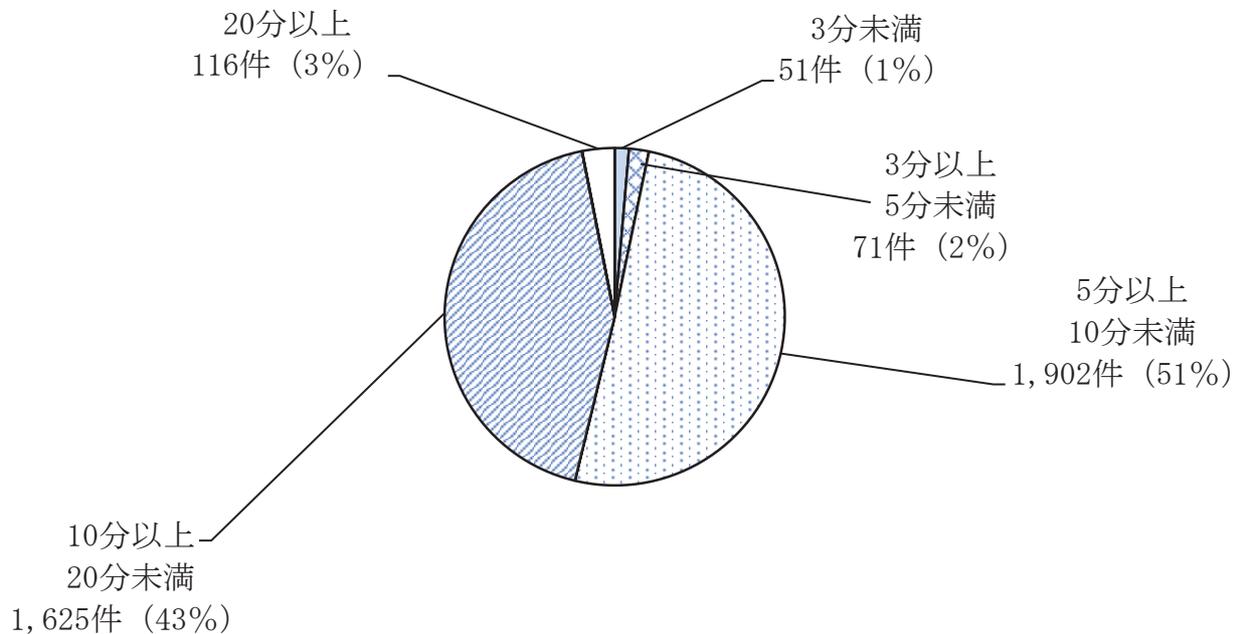
	計	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送・その他
計	3,582	1	2	2	189	54	14	584	7	31	2,377	321
新生児	5											5
乳幼児	71				5			11			44	11
少年	70				11		12	8		4	34	1
成人	756	1			96	36	2	94	4	18	421	84
高齢者	2,680		2	2	77	18		471	3	9	1,878	220
備考	○新生児 生後28日未満の者 ○乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者 ○少年 満7歳以上満18歳未満の者 ○成人 満18歳以上満65歳未満の者 ○高齢者 満65歳以上の者											

(3) 現場到着所要時間

令和3年中の救急出動件数3,765件を現場到着所要時間別（覚知から現場に到着するまでに要した時間）にみると、5～10分未満が1,902件で最も多く、全体の50.5%を占めている。

なお、平均現場到着所要時間は10.0分（前年8.8分）となっている。

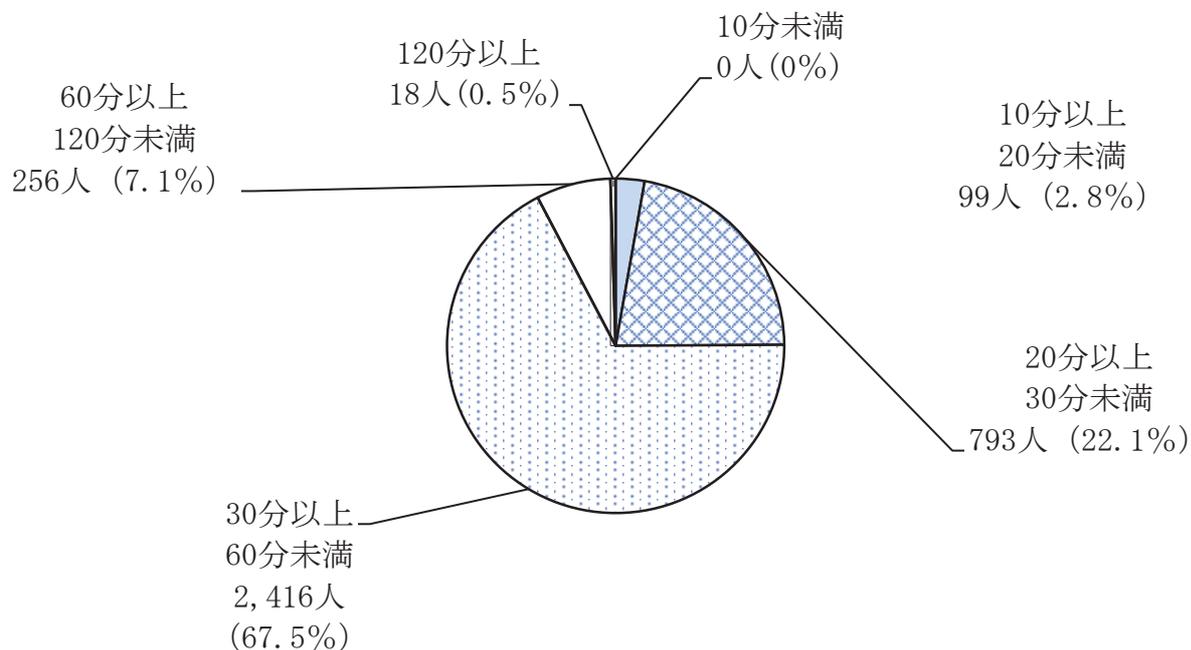
第5図 現場到着所要時間の状況



(4) 医療機関収容所要時間

令和3年中の救急自動車による搬送人員3,582人についての収容所要時間（覚知から医療機関に到着し医師引継ぎまでの時間）の状況は、30分以上60分未満が2,416人（67%）で最も多く、次いで20分以上30分未満の793人（22%）となっている。

第6図 医療機関収容所要時間別搬送人員の状況



(5) 救急隊員の行った応急処置等の実施状況

(令和3年中)

令和3年中の搬送人員3,582人の内、救急隊員が応急処置を行った傷病者は3,546人(搬送人員の99.0%)となっている。

平成19年7月から運用開始されている、認定救命士によるアドレナリン投与は25件実施されており、前年2年の20件と比べると5件増加している。

なお、平成26年4月から追加された心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液は40件、低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与は8件が認定救命士により実施されている。

第5表 事故種別ごとの応急処置実施数

応急処置	事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
止血	血	18	3	44	12	77
被覆	覆	12	24	92	19	147
固定	定	6	38	40	16	100
保温	温	26	2	26	11	65
酸素吸入	吸入	791	13	75	135	1,014
人工呼吸	呼吸	28	2	6	3	39
胸骨圧迫	圧迫	4		2	1	7
心肺蘇生	蘇生	124	7	18	15	164
在宅療法継続	継続	89		9	3	101
血圧測定	測定	2,210	180	557	320	3,267
心音・呼吸音聴取	聴取	1,031	72	101	64	1,268
血中酸素飽和度測定	測定	2,251	178	557	354	3,340
心電図測定	測定	1,650	76	170	174	2,070
気道確保	確保	215	7	30	22	274
(うち経鼻エアウェイ)		1				1
(うち喉頭鏡、鉗子等)		11		6		17
(うちラリングアルマスク等)		2		2	1	5
(うち気管挿管)		1		2		3
除細動	動	15	1	1		17
静脈路確保(CPA前/後)	確保	111	5	10	11	137
薬剤投与	投与	20	2	3		25
ブドウ糖投与	投与	8				8
その他の処置	処置	2,318	181	569	293	3,361

住民に対する応急手当の普及状況

救急隊の要請から現場に到着するまでに要する時間は、令和3年中の平均が10.0分であった。この間、一般市民による応急手当が適切に実施されれば大きな救命効果が得られることから、住民に対する応急手当の知識と技術の普及を目的に、救命講習会やインターネットを活用したeラーニングによる普及啓発活動を積極的に進めている。

平成6年より実施した普通救命講習の受講者は延べ46,155人に達している。

(令和3年3月末現在)

第6表 講習会実施状況

年別	上級救命講習		普通救命講習		入門コース		その他の講習		計	
平成25年	1回	26人	85回	1,459人	11回	347人	29回	1,199人	126回	3,031人
平成26年	1回	30人	84回	2,016人	20回	438人	25回	697人	130回	3,181人
平成27年	1回	33人	81回	1,646人	30回	652人	13回	284人	125回	2,615人
平成28年	1回	24人	70回	1,694人	25回	629人	19回	869人	115回	3,216人
平成29年	1回	30人	65回	1,635人	29回	783人	29回	773人	124回	3,221人
平成30年	1回	26人	55回	1,298人	29回	606人	35回	752人	120回	2,682人
平成31年 令和元年	1回	25人	59回	1,409人	32回	665人	22回	473人	114回	2,572人
令和2年	1回	17人	21回	714人	8回	176人	3回	17人	33回	924人
令和3年	1回	19人	32回	612人	22回	427人	2回	16人	57回	1,074人

※入門コースは平成24年度から開催

第7図 心肺停止傷病者に対する一般住民の応急手当実施状況

